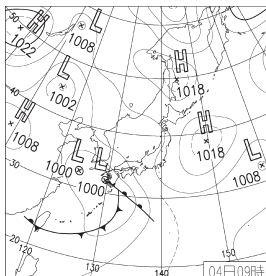


# 日々の天気図

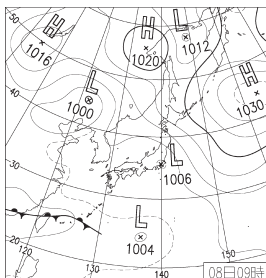
— No. 149

## 2014年6月

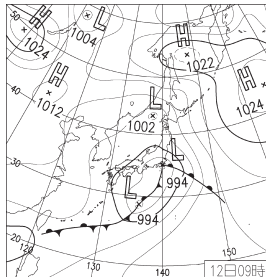
- 3日～4日、北海道で記録的な暑さ。両日とも猛暑日観測地点(18地点)のほとんどを北海道で占め、3日は道内4地点で37°C以上に。
  - 17日、一旦熱帯低気圧に衰弱していた台風第7号が再発達して復活。下旬に東日本を中心に大気不安定の日が続き、雷雨や局地的な雨。
- (気象庁予報部予報課)



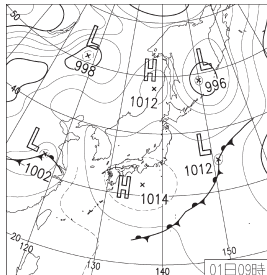
**4日(水)中国～東海で梅雨入り**  
気圧の谷が接近し九州・四国で大雨、高知県土佐清水市三崎で日降水量464mm。中国、近畿、東海で梅雨入り発表。北海道は引き続き暑く15地点で最高気温の史上1位を更新。



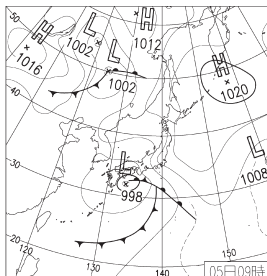
**8日(日)関東甲信で大雨**  
低気圧と梅雨前線の影響で全国的に雨。西日本など日中晴れた所も、午後は大気の状態が不安定となり雨雲が発達。長野県大桑村須原で観測史上1位の56mm/1h。宮城県で震度4。



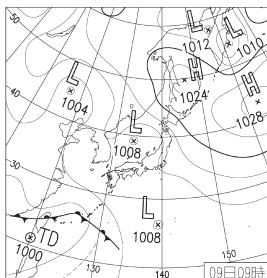
**12日(木)全国的に大雨**  
日本付近は気圧の谷となり全国的に雨の所が多い。西日本～北陸は上空の寒気により大気の状態が不安定。福井県敦賀で58.5mm/1h、史上1位。台風第6号は温帯低気圧に変わる。



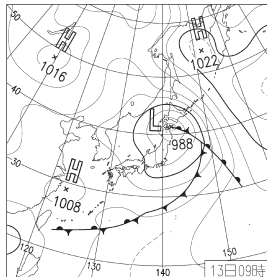
**1日(日)近畿～関東で猛暑日**  
高気圧に覆われ朝から晴れて気温上昇。岐阜県揖斐川と群馬県館林で36.3°Cなど12府県の27地点で猛暑日。真夏日は404地点(全国の44%)。西～東日本の広い範囲で黄砂を観測。



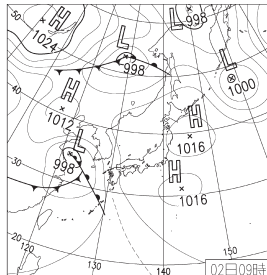
**5日(木)東北南部まで梅雨入り**  
四国沖の動きの遅い低気圧や前線により、西～東日本の太平洋側で大雨。三重県尾鷲で51.5mm/1h。日降水量373.5mm。関東甲信、北陸、東北南部で梅雨入りを発表。



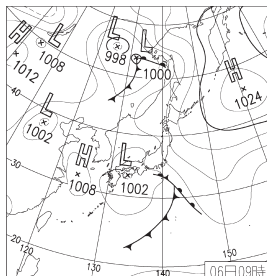
**9日(月)西日本に晴れ間**  
沖縄・奄美は梅雨前線の影響で曇りや雨。西日本は晴れたが上空の寒気の影響で一部で雷雨。東～北日本は曇りや雨。群馬県下仁田町西野牧で77mm/1h、史上1位。宮城県で震度4。



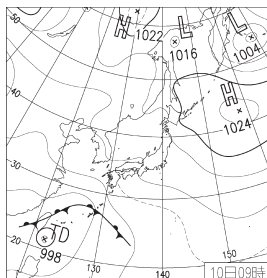
**13日(金)北海道大荒れ**  
発達中の低気圧の影響で、北日本と西～東日本の日本海側を中心に雨。北海道の一部で暴風。函館市美原で最大瞬間風速31.8m/s。沖縄は梅雨前線の雨域がかかる。



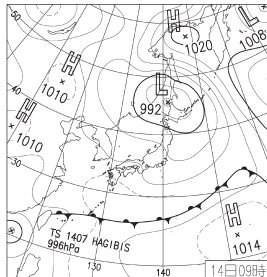
**2日(月)九州、梅雨入り発表**  
低気圧と前線の接近で沖縄～九州は雨。九州南部と北部で梅雨入りを発表。高気圧に覆われ東～北日本は晴れて気温上昇。猛暑日3地点、真夏日328地点。西日本で黄砂観測。



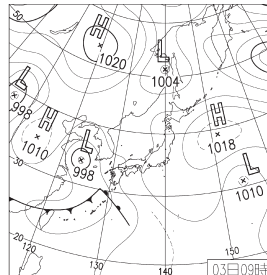
**6日(金)東北部梅雨入り発表**  
低気圧や前線が停滞し、先島諸島や近畿～関東の太平洋沿岸部を中心に雨。沖縄県竹富町波照間で59mm/1hの非常に激しい雨。東北地方北部で平年より8日早い梅雨入りを発表。



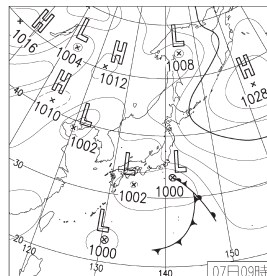
**10日(火)九州で激しい雨**  
晴れたのは北陸～東北地方日本海側と東海～関東の一部。その他は雲が多く所々で雨。九州では午後から前線の接近で激しい雨。最低気温は全国的に平年より高く北日本で7月並。



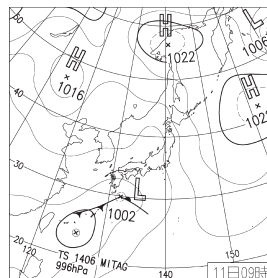
**14日(土)梅雨の晴れ間**  
北日本は低気圧と寒気の影響で曇りや雨。西～東日本は、日本海側や山沿いで雲が多いが、概ね晴れ。沖縄・奄美は、梅雨前線の活動が活発で雨。南シナ海で台風第7号発生。



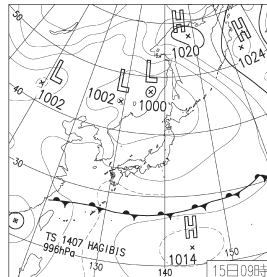
**3日(火)北海道17地点で猛暑日**  
東～北日本は晴れて暑い。北海道音更町駒場で37.8°C、観測史上1位。低気圧と前線が接近した西日本以南は曇りや雨。鹿児島県南種子町上中で64.5mm/1h。四国で梅雨入り発表。



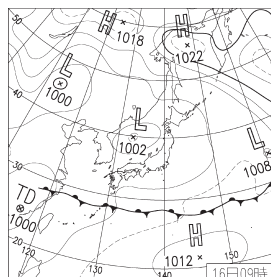
**7日(土)西日本～関東で大雨**  
上空の寒冷低気圧が東日本に停滞、暖かく湿った空気が流入した西日本～関東で大雨。岡山県美作市今岡で61.5mm/1h、6月の1位を更新。静岡県伊豆市天城山で日降水量247mm。



**11日(水)台風第6号発生**  
南から流入する暖かく湿った空気により東日本の太平洋側を中心に雨。沖縄・奄美は低気圧と前線による雨。那覇市樋川で36.5mm/1h。沖縄の南の熱帯低気圧が発達、台風第6号に。

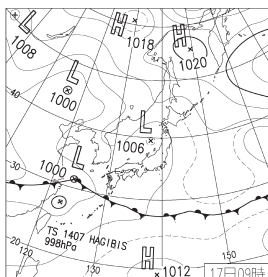


**15日(日)梅雨前線活発**  
沖縄～九州南部は梅雨前線の影響で雨。前線近傍の沖縄県伊是名村内花で46.5mm/1hの激しい雨。北日本は気圧の谷の影響で曇りや雨。その他は概ね晴れ。岩手県、青森県で震度4。



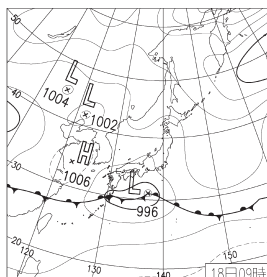
### 16日(月)南と北で雷雨

梅雨前線停滞、沖縄～九州南部は雨や雷。北日本は気圧の谷の影響による雷雨。鹿児島県伊仙で観測史上1位となる88.5 mm/1hの猛烈な雨。栃木、茨城、福島、宮城各県で震度4。



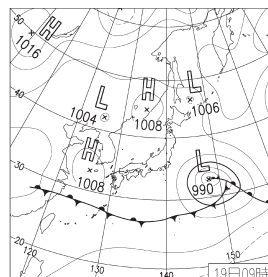
### 17日(火)台風第7号復活

北日本は気圧の谷の影響、西日本は低気圧や前線の接近で雨。東日本は日中昇温し、山沿い中心に雷雨。16日に台風から衰弱した熱帯低気圧が東シナ海で再発達、台風第7号復活。



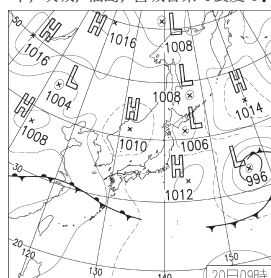
### 18日(水)西日本で低温

前線や低気圧、気圧の谷の影響により全国的に曇りや雨。西日本は気温が上がらず、最高気温が4月並の所が多い。台風第7号から変わった熱帯低気圧は未明に温帯低気圧に。



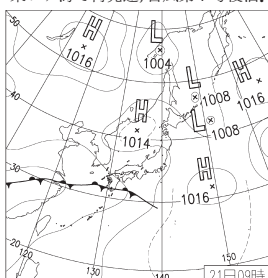
### 19日(木)北海道ぐずつく

引き続き東北部～北海道は曇りや雨。沖縄・奄美～九州南部は梅雨前線により曇りや雨。九州北部～東北部は晴れたが、午後は大気の状態が不安定となり、雷雨の所も。



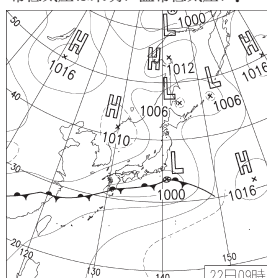
### 20日(金)梅雨前線が北上

低気圧に伴うまとまった雨域が、朝、北日本を通過。日中は西日本～東北で大気の状態が不安定となり、所々で雨や雷。梅雨前線の北上に伴い、九州南部は夜に雨強まる。



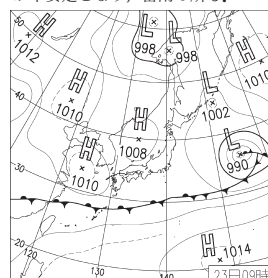
### 21日(土)鹿児島で大雨

梅雨前線により九州南部で雨続く。鹿児島県は枕崎で56.5 mm/1h、日降水量237 mmなど大雨。雨域は東に広がって夜には東海まで。大気の状態が不安定で関東北部中心に激しい雷雨。



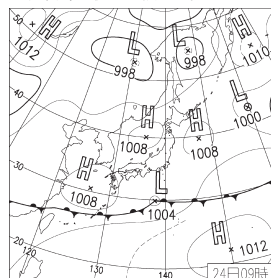
### 22日(日)梅雨前線の雨域抜ける

梅雨前線の上の低気圧が東進。西～東日本を覆った雨域もゆっくり東進し、夜にはほぼ抜けた。前線に近い九州では明け方～朝を中心に激しい雨。熊本県八代市平山新町で54 mm/1h。



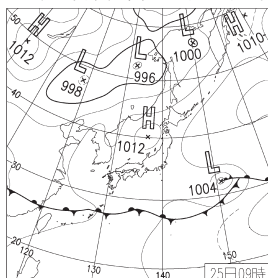
### 23日(月)栃木県で猛烈な雨

沖縄・奄美は梅雨前線により雨。その他の地域は高気圧に覆われて概ね晴れ。関東甲信は大気の状態が不安定となり、積乱雲が発達して雷雨。栃木県佐野で86.5 mm/1h、史上1位。



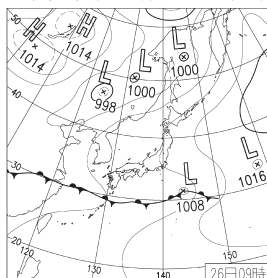
### 24日(火)西～東日本で雷雨

上空寒気の影響で中国・四国～関東の広い範囲で雷雨。茨城県西市門井で48.5 mm/1hなど7地点で1時間降水量の6月1位を更新。アリューシャン列島でMw7.9の地震。



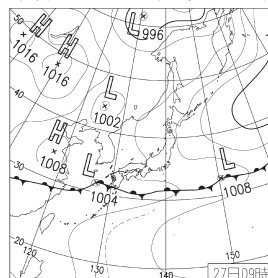
### 25日(水)連日各地で局地的大雨

沖縄・奄美と近畿～東北部で雨となったが、その他は概ね晴れ。東日本は上空の寒気の影響で連日雷雨。岐阜県八百津町加監で64.5 mm/1hの非常に激しい雨、6月の1位を更新。



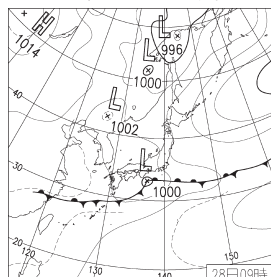
### 26日(木)沖縄、梅雨明け発表

梅雨前線の北上により九州～四国で雨。近畿～関東は寒気の影響により大気の状態が不安定となり局地的な雨。沖縄で平年より3日遅い梅雨明けを発表。北海道で震度4。



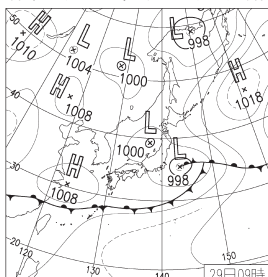
### 27日(金)九州南部で大雨

梅雨前線の活動が活発で、鹿児島県の4地点で非常に激しい雨。肝付町前田で75 mm/1h、観測史上1位。沖縄や北陸、北日本日本海側などは晴れて気温上昇、真夏日122地点。



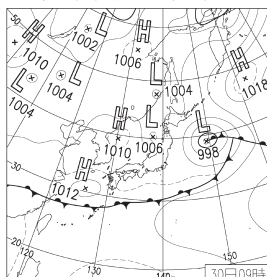
### 28日(土)沖縄と北日本で高温

西日本と東日本は梅雨前線と低気圧の影響で雨。梅雨明けした沖縄は晴れ。北日本は太平洋側で曇が多いが、日本海側やオホーツク海側は晴れて気温上昇、最高気温は真夏並に。



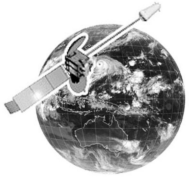
### 29日(日)東～北日本 大気不安定

上空の寒気の影響で東～北日本は各地で激しい雷雨。沖縄・奄美は前線や湿った気流の影響で雨。西日本も日中は晴れたが所々で雨。福島市鶯倉で日降水量123 mm。



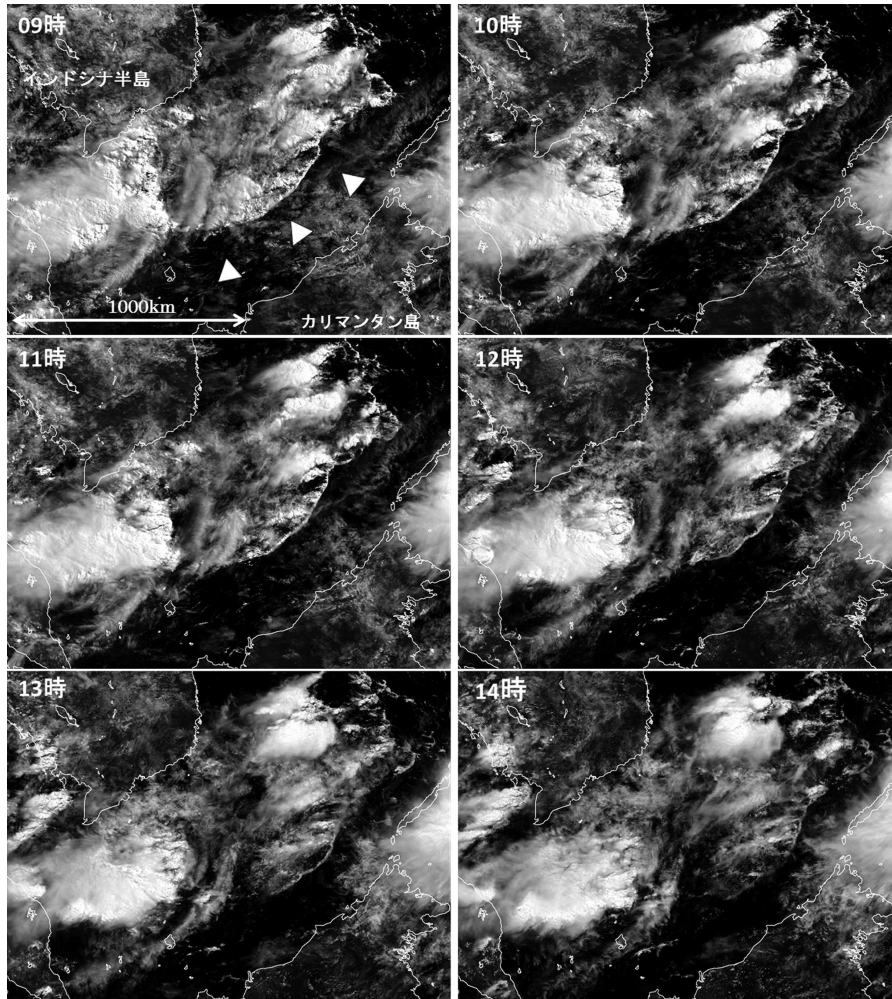
### 30日(月)沖縄や関東で雷雨

前線や湿った気流の影響で沖縄・奄美は雷雨、九州や四国は曇りの所が多い。上空の寒気の影響が残った北陸、関東甲信、北日本では所々で雨や雷雨、前橋で57.5 mm/1h。



## 今月のひまわり画像—2014年6月

### アーククラウド



第1図 2014年6月17日09時～14時（日本時間）の南シナ海付近における1時間毎の可視画像（図中の記号については、本文参照）。

第1図は2014年6月17日09時～14時（日本時間）の南シナ海付近における1時間毎の可視画像である。この期間、南シナ海付近には台風等の熱帯擾乱は発生していないものの、大規模な積乱雲が北東～南西方向に連なりながら発生・発達している。同図中に△印で示した対流雲列が、09時以降、この積乱雲域から四方に離れていく様子が見られる。このような円弧状の雲列はアーククラウド（arc cloud）と呼ばれている。アーククラウドは発達した積乱雲域から冷たい下降流が流れ出し、寒気先端（ガストフロント）に細い弓

状の対流雲列が発生するもので、熱帯域では台風等の大規模な積乱雲域の周辺でよく観測される。同現象は寒気移流によって発生することから、その進行方向に暖湿な気塊や上昇気流を生じさせる地形等があると、新たな積乱雲を発生させることがある。風向風速の急変を伴うため、海上の船舶などは注意が必要である。

アーククラウドは、数百 km 程度の気象現象であるが、本事例では全長1000 km ほどの長さには達していた。

（気象庁予報部予報課 河野麻由可）